

首都圏増田会だより

29
2014.6

11月16日(日)は首都圏増田会へ。

**増田会
いものこ汁で
酒すすみ。**

11月16日(日)
首都圏増田会で
会いましょう。

清涼の狙半内川(川口地内)

「お・も・て・な・し」の

精神の心で

高橋栄次郎

首都圏増田会副会長、
滝ノ下出身。



年

に1回の出会いと別れ、増田会総会懇親会、会場東京上野オーラム結婚式場の大広間に、わくわくしながら駆けつけて下さる首都圏在住の会員の皆様の再会の集い、この1年間のおもてなしの準備と企画演出の成果を実感する瞬間を待つ役員の面々、そしてまた次年度へのおもてなしの心で盛り上げるバロメーターとして参考にし、「反省は向上なりの精神」で、佐藤会長のもと役員一丸となって、更に一層懇親会を盛り上げる工夫を多方面から総合的に検討しております。その一つに、式の

雰囲気等の在り方、常に淡々と当たり前の様に会の進行が流れていく中にも、会員の皆様が関心を示し、共鳴する喜びや満面の笑顔等を役員一同参考に、また宴会の最大の関心事としては、ふる里の心のつながりの大切な郷土料理、毎年宴会の食卓に載る美味しいイモの子汁以外にも、今、新たに増田町で販売している、ほうずき羊羹や狙半内滝ノ下に伝わる小豆でつち等々、めったに食した事のない幻の食材を発掘して食卓を賑わすことも又一考。

それはさておき、私たち役員は、地味で目立たず裏方の存在に徹し、常に会員の皆様の喜びは、世話役の私たちの共通の喜びとして共有するものでもあると思います。又、常に注目する楽しみの一つである懇親会では、一般に唄や踊りのアトラクションが催されますが、酒が捗り宴が深まる中で、会話が進むにつれて各々会話が中心の舞台となり、賑やかで、人によって

はアトラクションの本来の意味に添わないと話す人もいますが、あに図らんや、宴会でのアトラクションは絶対必要不可欠であり、会話は会話、唄や踊りの演奏は体でリズムをとっているもので、歌い継がれた民謡等は体の一部という人もいます。この点一考事項。広報の一環として、故郷の市役所職員のご厚意・ご指導による連帯で、ふる里探訪の企画を毎年実施し、ふる里の人々と交流し、同行者に対しては、歴史・文化・名所・天然記念物等の紹介を担っております。

会員の皆様、新役員になって様々なアイディアと一緒に出し合いながら**増田会を盛り上げて行きます**しよう。

首都圏増田会に参加して
想う

石山 銀次郎さん
〔八木出身〕



私は、昭和34年の春、就職列車に乗り上京しました。

早いもので50年が過ぎ、増田会も28回目を迎えました。私は、受付を済ませ会場に入り、まず同期生や先輩知人と会いました。ふるりなまりで昔話に花を咲かせ、次は増田の物産所に直行し、増田の品物を買うのが何よりも楽しめました。

年々参加者も少なくなり寂しいものです。私は友人の皆様、特に若い皆様方に伝えたいと思います。ぜひ、増田会に参加してみてください。会場には、増田町のお

酒や漬物やリンゴ、故郷の味が増田会では皆様を待っています。又、アトラクションあり、抽選会もあります。楽しい一日を過ごしてみませんか。お待ちしております。最後に、首都圏増田会のご発展と、増田会委員の皆様方のご健勝とご長寿をご祈念申し上げます。29回目の首都圏増田会を楽しみにしております。

首都圏増田会に参加して

奥山 ミエ子さん
〔上畑出身〕



私は、20年ぶりに出席しました。主人は用事がない限り出席しています。いく度も私に声をかけてくれた

のですが腰が重く出席していませんでした。いざ出席してみると楽しいもんですね。増田町のDVD上映に始まり、自分の生まれ育った村のDVDを見て、昔とずいぶん変わったなと思いました。色んなイベントをやるには、皆さんの協力がなければ出来ません。本当にお疲れ様です。

又、芋の子汁や菊のあえ物、漬物等々は、本当においしくいただきました。干しもち、エゴ、稲庭うどん、その他買って来て昔を思い出しながら食べました。

盛り上がったのが最後の抽選会でした。久しぶりに参加して、なんとお米が当たりました。大喜びして帰りました。次回も又参加したいと思います。ありがと

うございました。

新しい市長を始め、増田会が今後も益々発展します様心よりお祈り申し上げます。

高橋市長を応援しますので、どうぞ頑張ってください。

増田会にて亡き父を想う

木藤 道子さん
〔関ノ口出身〕



私は、生まれ育った増田を卒業後上京し、現在は千葉で定年後の夫と生活しています。先日帰省した際、増田会に誘われ初めて参加させていただきました。しかし、会場には知り合いの方もおらず、心細く呆然としていたところ、「おめさんは

出身は何処か」と声をかけられ、狹半内地域の方々の席に誘われました。皆様と子供当時の小さな記憶を元に昔話をしていると、思いもしなかった45年前を振り返り、亡くなった父についての話が繋がり、私の知らない父の仕事ぶりやエピソードを知り、懐かしいやら恥ずかしいやら、話に花が咲きました。その後、みんな「ふるさと」を合唱したときは、亡き父を想い、又、桜に染まった真人山、白い花をつけたリンゴ畑などを思い出し、思わず涙を流してしまいました。

会場では、皆さんと親身に接していただき、とても意味のある楽しい一日を過ごせました。

第8回秋田盆おどり サミット in 増田

1月12日、増田盆おどり保存会主催の『秋田盆おどりサミット』が、増田ふれあいプラザで行われました。

増田盆おどりははじめ岩崎盆踊り、西馬音内盆踊りが軽妙な地口とお囃子に合わせて披露されたほか、南外釜坂おけさ、仙台すずめ踊りの息の合った踊りが観客を魅了しました。

(市報・平成26年2月1日号より)



釣りキチ三平 生誕40周年展

矢口高雄氏の大ヒット作『釣りキチ三平』誕生40年の歴史と魅力を探る企画展が、7月20日から9月8日まで増田まんが美術館で開催されました。企画展では、増田地域の豊かな自然の中で、アユやイワナを釣り上げる主人公の三平を描いた作品や、単行本の表紙を飾った原画を中心にグッズなど300点以上が展示されました。

(市報・平成25年9月15日号より)



全日本元祖たらいこぎ 選手権大会

8月16日、増田地域の恒例行事『第27回全日本元祖たらいこぎ選手権大会』が真人公園で開催されました。遠くは京都など県内外から、子ども・中学生以上の男女・団体の4部門に135人が参加。42.195m先のゴールを目指して順調に進む選手がいる一方、転覆する選手も続出し、沼の周りを囲んだ観客の笑いを誘っていました。

(市報・平成25年9月1日号より)



元祖さるはんない幻灯

約10ヶ所にもおよぶ灯りロード。ろうそくの灯が雪を照らし、温かい光が訪れた人を優しく包み込みました。

(市報・平成26年3月1日号より)



夜の蔵で涼しさを演出

8月16日、増田盆おどり大会にあわせて、一夜限りの「灯りアート展」が、増田地域の蔵の駅で行われました。音楽が流れる中、金魚が水槽を涼しげに舞い、四季の写真がスクリーンを彩り、幻想的な世界を演出。観客は、普段見ることのない夜の蔵で光と影の共演を楽しみました。

(市報・平成25年9月1日号より)



稚アユ、約1万匹を放流

6月20日、増田小学校の1年生48人が、皆瀬川の皆瀬頭首工でアユの稚魚放流を行いました。これは、自然や命の大切さを感じ、頭首工の役割を知ってもらおうと、秋田県雄物川筋土地改良区が主催。児童たちは、稚魚が入ったバケツをそっと傾け「大きくなってね」と声を掛けながら、約1万匹を放流しました。

(市報・平成25年7月15日号より)



増田の味で 交流深める。

平成25年11月17日、東上野（御徒町）の「オーラム」において、高橋大横手市長をはじめ市関係者、それぞれ各方面からの来賓の方々をお迎えし、『第28回首都圏増田会総会』が開催され、議事・議題はすべて可決・承認されました。

総会後の交流会では、芋の子汁や菊の和え物、地酒など、増田の味を堪能。歌や踊り、抽選会などで大いに盛り上がり、交流を深めました。



第	28
ス	回
ナ	総
ツ	会
プ	



広告掲載

横手市増田のまちなみが 国の重要伝統的建造物群 保存地区に選定。

平成25年10月18日に、国の文化審議会文化財分科会より重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）選定の答申を受けた「横手市増田伝統的建造物群保存地区」が、平成25年12月27日付の官報において告示され、重伝建地区に選定されました。秋田県では仙北市角館に次ぐ、2番目の選定となります。



■所在地 横手市増田町増田字本町、字田町、字中町及び字七日町の各一部 / ■面積 約10.6ヘクタール

重伝建選定の効果

重伝建の選定を受けたことで、報道・紀行番組・雑誌などで、ほぼ毎月のように何らかの増田に関する記事が各種媒体に掲載されるようになりました。また今後には公的に発行される地図には必ず「増田」の文字が入るようになるそうです。重伝建になったことで、こうした見えない広告効果もや

がて如実に表れてくること
と思います。

増田の町に訪れる人も目に見えて増加傾向にあります。先日のゴールデンウィーク期間も相当数の方が増田を訪れており、観光案内所「蔵の駅」の利用者だけで1日当たり千人に迫る勢いでにぎわいました。

地域の歴史を 生かす取組み

増田にはまだ多くの歴史的な資産があります。

大正時代に最盛期を迎えた吉乃鉱山。吉野鉱山に係した人員は万人近く、のほり、当時の国鉄十文字駅と吉乃鉱山の間の物資と人の往来は、増田が商家町として最盛期を迎えた最大の要因となりました。この地域の歴史を語り、受け継いでいこうと、現在西成瀬地区の人々を中心に学習会も開催されています。

桜の名所、真人公園は昔

も今も変わらぬ増田人の心の拠り所。さくらまつり、りんごまつり、たらいこぎなど増田を象徴するイベントの舞台でもあります。

また、小栗山集落は集落形態や地割など、近世来の形態を踏襲しており、農村集落の様子を現在に残しています。増田にはこうした歴史的な資産が多く残っており、亀田、西成瀬、狹半内の各地区にもさまざまな歴史的な遺産が眠っています。この地で生まれた私たちにとっても当り前のように目にしていながら、実はこの地域を語り、伝えていくうえで欠かせないものがまだまだたくさんあります。

今回選定された伝建地区についても同様で、この地で日々目にしていた私たちにとっては、それが特段珍しいわけでもなく、当り前の町並みのように思えていました。しかし、これが外部に評価されたことで、かけ

多くの観光客で賑わう
真人公園（さくらまつり）



がえのない物であるように
思え、これまでその家にとつて「たなぎモノ」とされてきた無駄に大きな主屋や内蔵は、今や地域全体の活性化の切り札になりつつあります。

市では、こうしたこの地域にしかない物、地域固有の歴史的資産を掘り起こし、保護継承と活性化に結び付ける取組み方法について、現在検討しています。増田が増田であるために、ここにしかないものを探して行きたいと考えています。

お願い — 連絡 —

事務局より

市町村合併後、市当局からの支援金が大幅に削減されてしまいました。つきましては増田会として、やむをえず次のようにいたしました。

過去5年間、会費が未納の会員

総会の案内及び増田会だよりの郵送を中止することにしました。ただし、総会への参加は構いませんので一人でも多くの会員の参加をお待ちしております。皆様のご理解の程をお願い申し上げます。

平成25年度首都圏増田会収支報告

平成25.11.18現在

首都圏増田会の平成25年度の収支決算がまとまりました。内容は下記のとおりです。

【収入の部】		※「比較」欄は予算との比較	
項 目	金額(円)	比 較	説 明
年 会 費	311,840	▲88,160	手数料差引後
総 会 費	728,000	▲72,000	88 人
横手市補助金	270,000	0	首都圏増田会補助金
前年度繰越金	786,452	▲5,204	
預 金 利 子	87	▲63	
諸 収 入	334,000	34,000	総会祝儀、広告収入ほか
合 計	2,430,379	▲131,427	

【支出の部】		※「比較」欄は予算との比較	
項 目	金額(円)	比 較	説 明
総 会 費	1,177,201	▲77,201	会場料、宴会費用ほか
会 議 費	220,997	▲20,997	役員会・3 回
在京ふるさと会	182,000	18,000	各ふるさと会会費
慶 弔 費	7,927	22,073	沓澤文治氏・お線香代
広 告 費	50,000	30,000	増田の花火協賛金
通 信 費	90,020	9,980	たより印刷代ほか
事業部活動費	10,000	60,000	役員研修・広報活動費
振込み手数料	2,730	▲630	送金手数料
事 務 費	11,440	18,560	事務消耗品ほか
積 立 金	0	300,000	30 周年積立金
予 備 費	0	449,706	
合 計	1,752,315	809,491	

収支差引残金 678,064 円は翌年度へ繰越

第29回首都圏増田会総会

■期日 11月16日(日)午前11:30～
■場所 オーラム(昨年と同じ会場です)
住所 東京都台東区東上野 1-26-2
電話 03-5812-1123

会費 8,000 円

※参加者全員が着席できるように準備しております。

募集しています

写真募集 首都圏増田会広報部より

「増田会だより」の表紙に掲載する増田会にふさわしい、郷土の風景、行事、心に残る写真をお持ちの会員は、是非写真の提供をお願いします。

■提出先：広報部長 泉森曜子

広告協賛募集 首都圏増田会総務部より

総会資料に掲載する広告を募集しております。1口(名刺判) 3,000円となります。ご希望される会員は伝票の通信欄にその旨をご記入いただき、会費と一緒に納入してください。

会費の納入はお早めに

事務局より

当会の事業・運営は会員の皆様の会費によって賄われていますが、最近会費の納入が遅れたり、未納となる会員がおられます。健全会計維持のため、納入はお早めをお願いします。なお、未納の会員には次回より案内状、増田会だより等の送付は行わないこととします。また、転居された会員をご存じの場合は増田地域局地域振興課へお知らせください。

■連絡先：秋田県横手市増田町増田字土肥館
173番地 / 電話 0182-45-5510

◆会 費 年額 2,000円

◆納入期限 平成26年10月10日

※払込伝票の通信欄は、会員紹介、増田会に対するご意見などをご自由に記入してください。